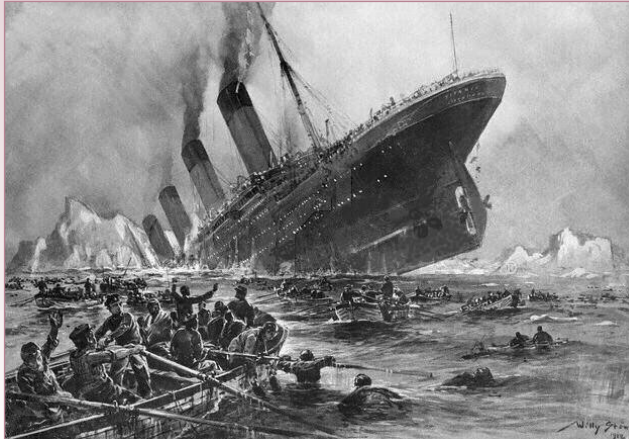


持続可能な社会づくりのために

環境省 環境カウンセラー 出口 省 吾



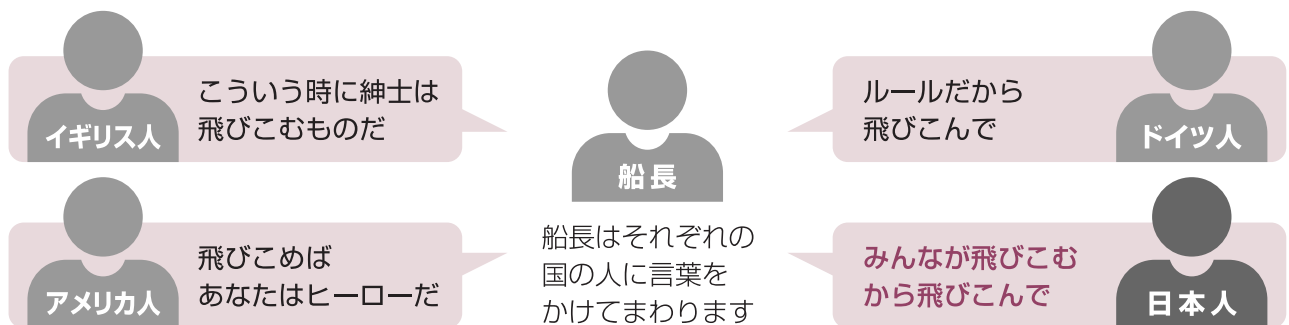
豪華客船タイタニック号の船内はとても華やかで快適な日々を満喫しながら旅することができました。また、当時の科学技術の粋を集め、夢の不沈船とまでいわれた船が沈没すると思う人は誰一人としていませんでした。

宇宙船地球号もタイタニック号のようにならないために、一人でも多くの人が行動しなければ…

図：沈没するタイタニック号 Willy Stöwer画
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より

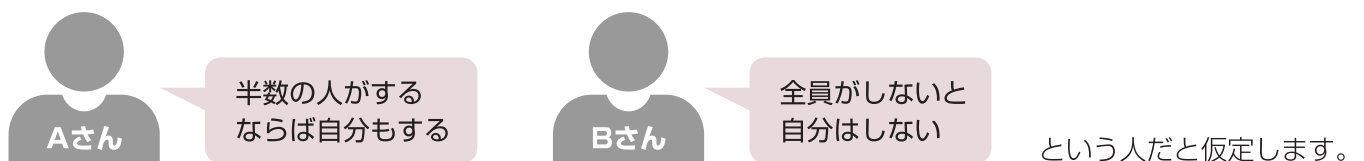
第6話 みんなに広めよう！

環境に配慮した行動が、日本ではなぜ起こしにくいのか。これを考えるとき、よく使われる文化比較のジョークがあります。タイタニック号が沈没するとき、船長が男性から先に海へ飛びこむように説得します。



つまり、日本人は他の国の人たちに比べると、「周りの多くの人があるから、自分もする」という意識が強い民族だと捉えられているのでしょう。そのように考えると、日本人を行動させるためには、ルールなどよりも「多くの人がある」という状況がとても重要であるといえます。

そこで、次のような話を考えてみました。自分を含めて3人の人がいたとします。



あなたが行動しないと、Aさんは半数以下なので行動しません。当然Bさんも行動しません。これは誰も行動しないことになります。ところが、あなたが行動すればAさんは2人のうち1人（半数の人）が行動したことになるから行動に移します。それを見たBさんは2人とも行動している（全員）から自分も行動するようになります。これはみんなが行動できたことになります。

エコ活動で大切なことは、一人でも多くの人が行動することです。そのためには、迷うことなく自分がまず行動し始めることです。しかも、エコ活動をして良かったこと、たとえば「〇〇したら電気代が〇〇円も安くなって得したよ」などと**楽しそうに伝える**ことです。

そうすれば、仲間もどんどん広がっていき、やがては大きな力になっていくのです。

今回、わたしがこの連載を書くことになったのも、より多くの人たちにエコ活動の大切さを広めて仲間を増やしたいという強い思いがあるからです。

問北勢庁舎 生活環境課 T 72-3946 F 72-3748